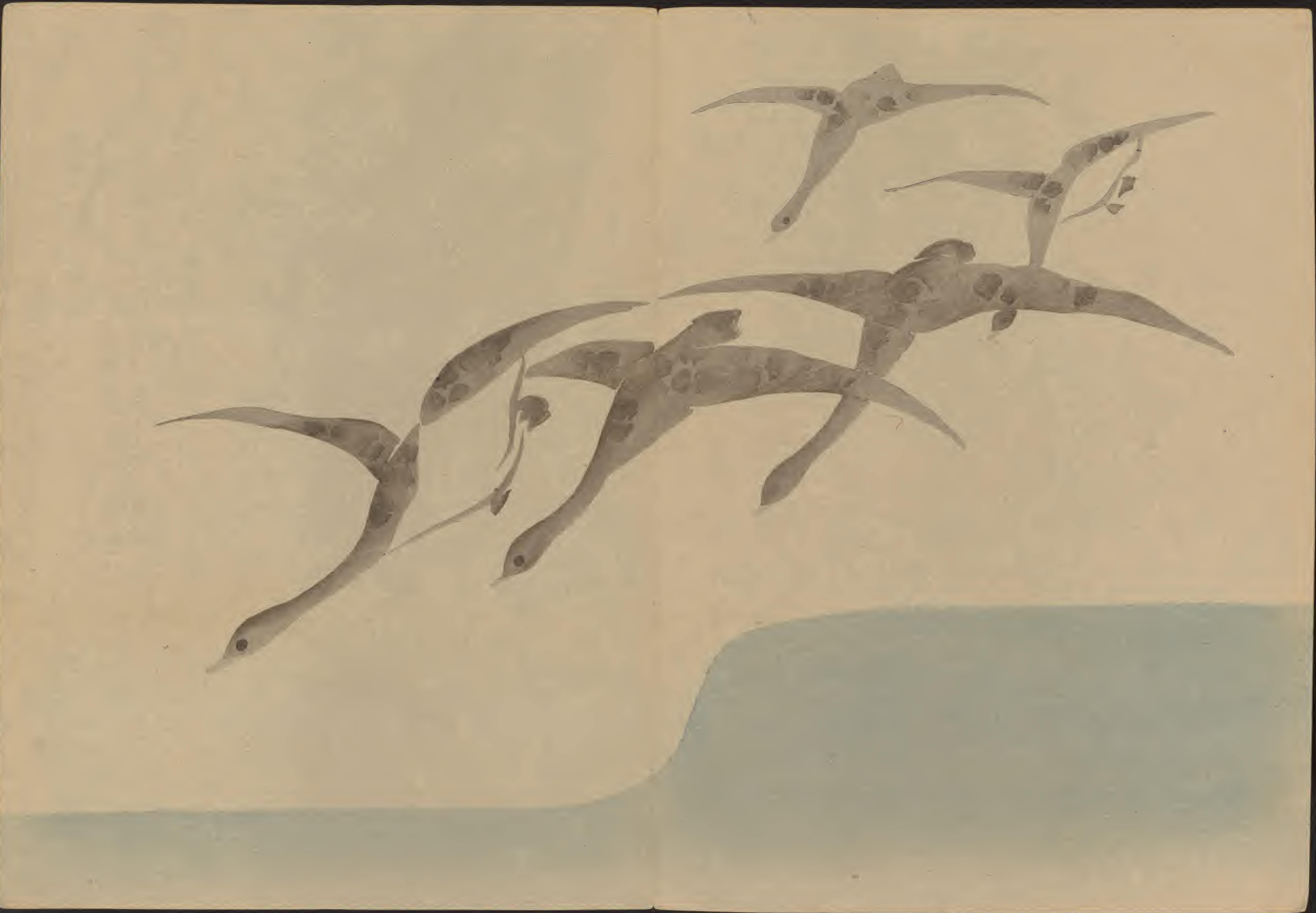
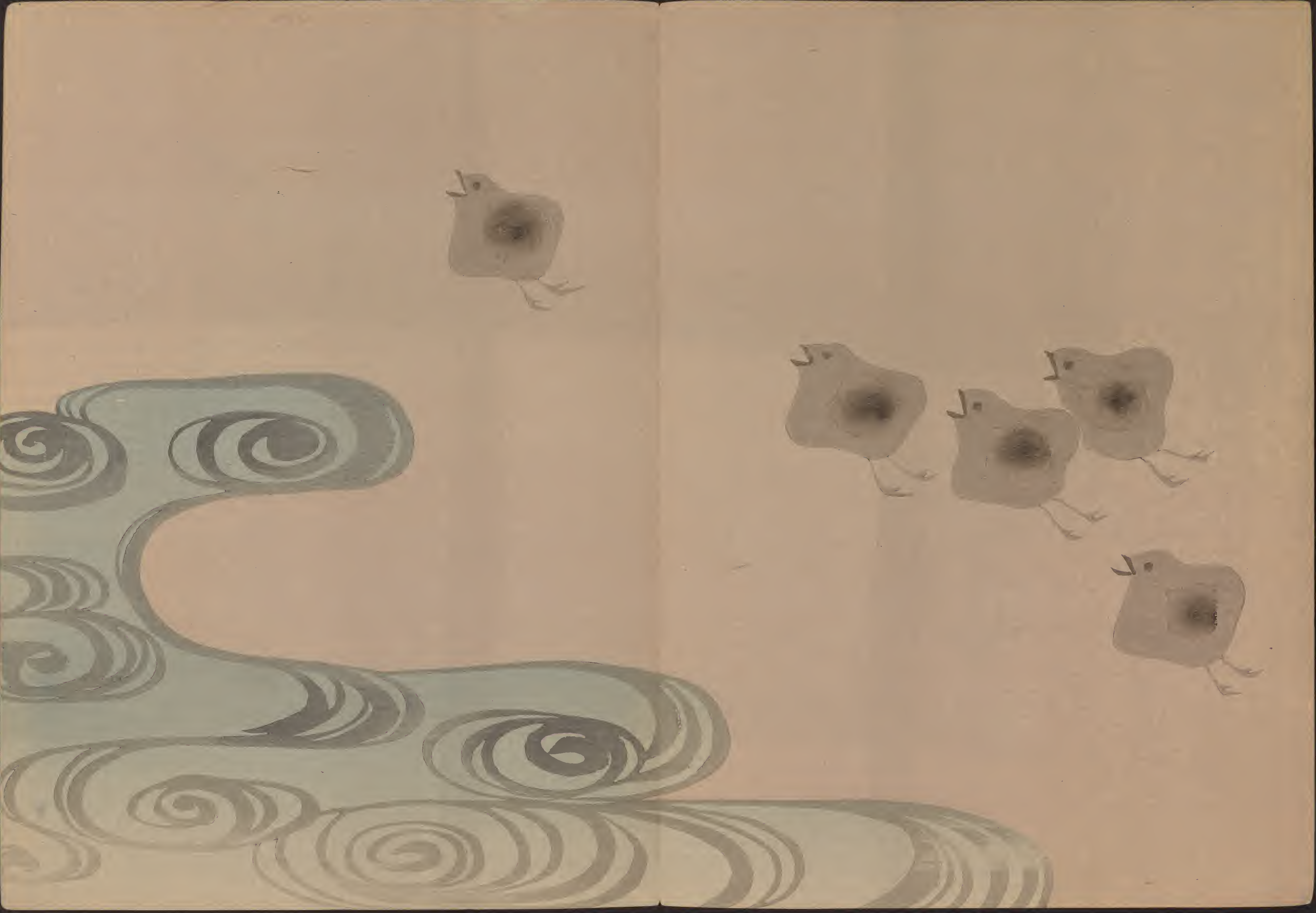
光琳画譜

坤





土佐の丹青の精密なる狩野の
濃墨の飄揺なるこのものゝやこと
なきまり藻屑かくある浦人まで
眼をも悦こそしめつる筆なくさあ
すとし筆なしかその中より
しき光琳氏か一風の洒落ハ画
中に画ありてあやしき妙しく多
き流を汲く者雅俗人の

弟子の宗小市か筆力なきハ筆
乃たりなきとも何遠く画く事を
きゝふとものゝちかよりつくし
これをおしくと見て清書も
又芳中か画譜となりぬ

蓮華庵主
八十六翁不白之

亨和壬戌の冬し
東都旅館に
爐をとりし
芳中寫て

搨工 擔板漢

東都書林金華堂守黒藏

FREER GALLERY OF AR